

令和8年度職員の募集について



11月
第一日曜日

かながわ畜産の日

たくさん、畜産、かながわ産。



KANAGAWA
かながわ畜産ブランド推進協議会

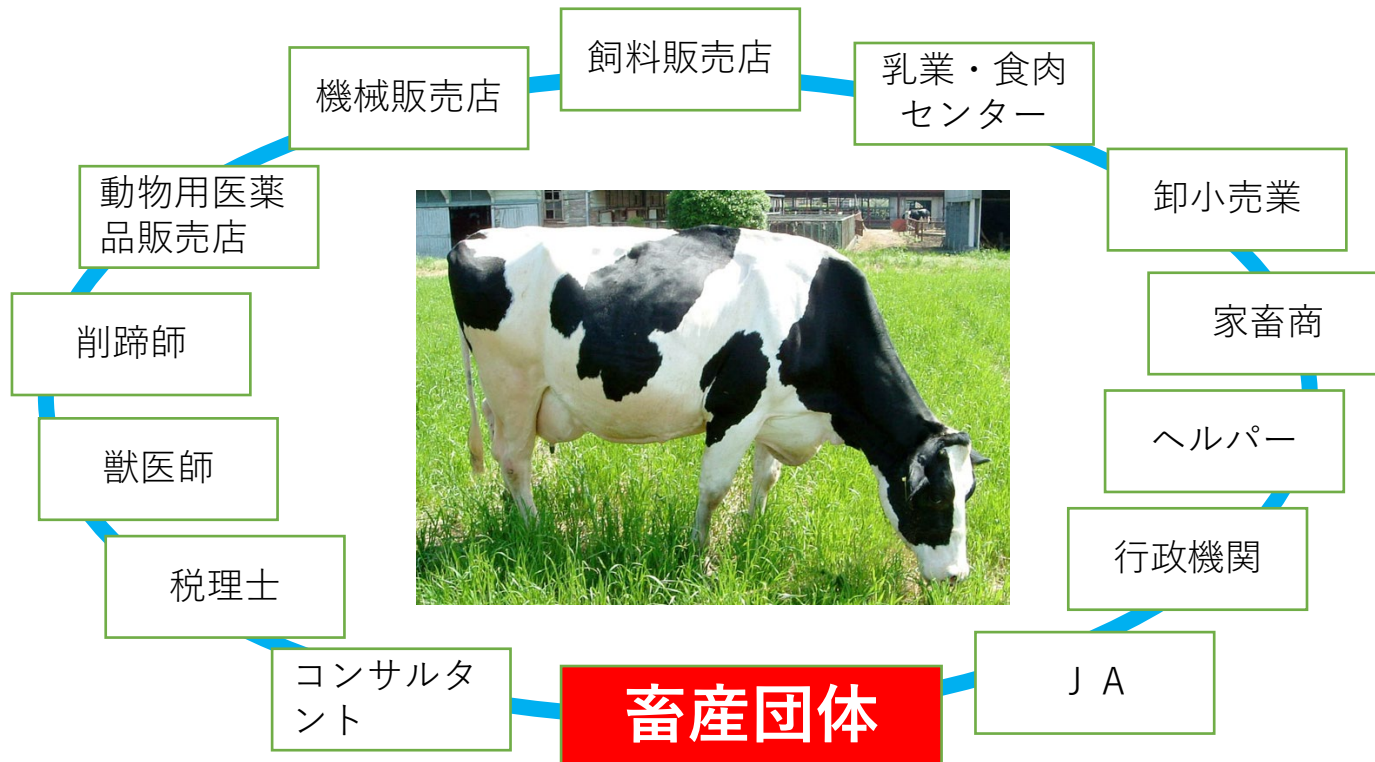
一般社団法人神奈川県畜産会

神奈川県畜産会の存在意義



たとえばプロ野球の試合でグラウンドに立つのはプロ野球選手ですが、選手だけではプロ野球は成り立ちません

畜産においては、畜産農家が、飼料販売店や獣医師、乳業・食肉センター、行政機関、畜産団体など、様々な関係者と関わり安全でおいしい畜産物を生産しています。



神奈川県畜産会は神奈川県内の畜産業を支える重要な組織なのです

育てる 畜産経営者の育成

支える 畜産経営の支援

守る 家畜防疫の推進

広める 畜産に関する情報発信

神奈川県畜産会は、公益社団法人中央畜産会など全国団体や行政機関、畜産関係団体と連携して神奈川の畜産振興に寄与しています

神奈川の畜産は江戸末期の横浜開港とともに幕を開け160年以上の歴史を刻んできました。私たちは先人たちが築いてきた「かながわの畜産」のバトンを次世代に繋ぐべく、生産者とともに頑張っています

日本人による牛乳販売の始まり

実は日本での牛乳販売は神奈川県から始まったと言われています。1866年に千葉県出身の前田留吉が横浜市内で牛を飼い始め、搾乳・販売を始めたと言われており、これが日本人による牛乳販売の発祥



と言われています。その後、乳製品を供給するために牛を飼養する人が増え、現在の象の鼻パーク辺りの波止場を中心に最大48カ所の農場が存在し、横浜の「ミルクリング」と呼ばれていました。現在でも県内様々な地域で酪農は営まれ、県産牛乳を使った商品の販売もされています。



神奈川の養豚の始まり

神奈川県の養豚の歴史は古く、1853年にペリ一率いる黒船とともに、神奈川県浦賀に豚がやってきました。その後、1859年の横浜開港時、横浜市内に外国人居留地が設置され、そこに供給する豚肉を生産するため、特に今の中華街付近で豚が飼われたのが始まりとされています。



アイスクリームの発祥

明治2年、横浜市で「あいすくりん」が販売され、これが日本初のアイスクリームと言われています。当時非常に高価だったそうです。馬車道通りにある太陽の母子像にはアイスクリーム発祥の碑文が刻まれています。



大消費地が近いのが最大の強み

人口約920万人は全国第2位

観光地もたくさんあります
横浜、鎌倉・湘南、箱根・・・



生産者と消費者の距離間が近い 生産者と関係機関の距離感も近い

- 畜産農家戸数は200戸強ですが、身近に大消費地があるので
- ・ 6次産業化が盛んで直売所等、消費者との関係を大事にした経営が数多くあります
 - ・ 地域の名を冠したブランドが数多くあります
 - ・ 畜産環境対策や家畜防疫対策にしっかり取り組んでいます

こうした取組を推進するため、行政機関と本会など畜産団体が連携して様々な施策を展開しており、おのずと生産者と関係機関の距離感も近いです

2023年には「かながわ畜産の日」を制定し、畜産の日に関しては全国で初めて、（一社）日本記念日協会による記念日登録をいただきました

11月

第一日曜日

たくさん、畜産、かながわ産。

かながわ畜産の日



かながわ畜産の日とは

神奈川県は横浜開港時の外国人を対象とした生産から160年を超える歴史があり、近年は戸数・頭羽数とも減少していますが、畜産物のブランド化や6次産業化の取組などがさかんです。

そこで、かながわの畜産が、これまで、県民のご理解のもと発展してきたことに感謝し、これからも、県民の期待に応える気持ちを込めて、毎年11月第一日曜日を、「かながわ畜産の日」と定め(※)、この日に記念イベントを開催するとともに、10月～11月に県内各地で開催されるイベントなどを通じて神奈川県の畜産をPRすることで、県民のかながわの畜産に対する理解を深め、かながわの畜産の持続的な発展に繋げていきます。

※一般社団法人日本記念日協会の登録団体は一般社団法人神奈川県畜産会です

2024年の取組は

記念イベント開催（11月3日）

農産物直売所などでかながわの畜産をPR（10月～11月）

子どもたちにも「かながわの畜産」を知ってほしい（10月～11月）

県産畜産フードが大集合！

（かながわ畜産ブランド推進協議会主催）

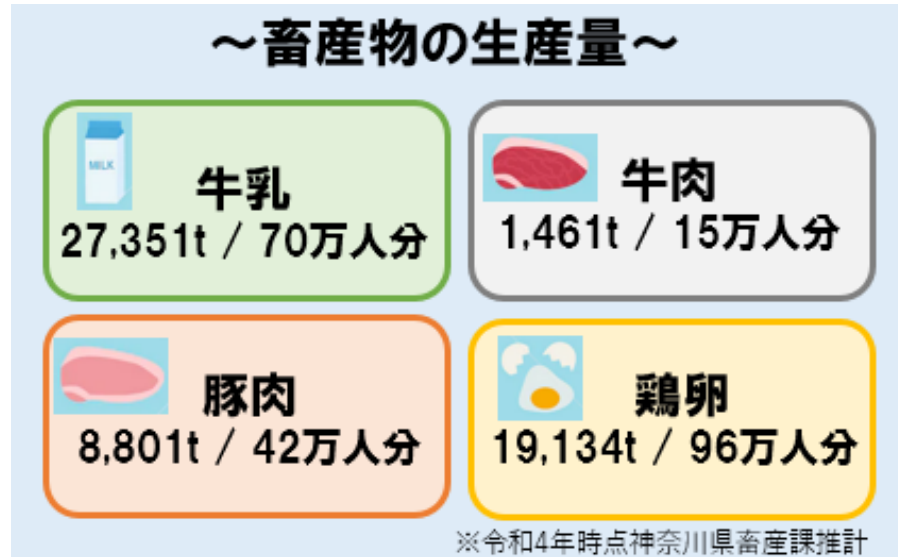
地域の大型直売所や農場の直売所がかながわの畜産をPR

学校給食への県産畜産物の提供に併せて食育活動等を実施



神奈川県の人口は全国第2位（約920万人）

県土面積は全国第43位



人口に対して県産畜産物の生産量が少ないので、知名度向上と販路拡大を進める必要があります

県土面積が小さく都市化が進展しているため、家畜の飼養頭数を増やしてスケールメリットを活かした経営展開をすることは難しい状況にあります

➤ 県外にも農場展開する経営体もあります

このため、6次産業化や技術の高度化、経営の合理化に繋がる取組を進める必要があります



課題はたくさんあります。あなたの力が必要です

神奈川県畜産会の主な活動

育てる 畜産経営者の育成

- 畜産経営者を対象としたスキルアップのための研修会を開催
- 後継者や新規就農者の参入促進、地域の中核的な担い手育成のための研修会
- 高校生を対象にした実践的な牧場研修

守る 家畜防疫の推進

- 地域一丸となった家畜防疫活動の推進
- 家畜伝染病に備えた防疫演習の実施
- 家畜に対するワクチン接種の推進
- 家畜衛生向上のための各種支援

支える 畜産経営の支援

- 経営診断の実施
- 畜産物価格低迷時の価格補てん対策
- 収益力強化のための畜産施設・機械導入の支援
- 農場HACCP認証の導入・維持支援
- 家畜伝染病発生時の経営再開支援

広める 畜産に関する情報発信

- かながわ畜産の日記念イベントをはじめ各種イベント活動によるかながわの畜産のPR
- かながわの畜産に関するPR動画の作成
- 川崎競馬場での馬事振興と併せた畜産PR活動
- 情報誌やHP、SNSでのPR

神奈川県畜産会の主な活動

育てる 畜産経営者の育成



セミナーの開催

支える 畜産経営の支援



作業機械導入の支援



農場HACCP認証制度
取組の支援



県産畜産ブランドの推進

守る 家畜防疫の推進



家畜伝染病の発生を想定した防疫演習の開催

広める 畜産に関する情報発信



かながわの畜産のPR動画作成や
県産畜産物知名度向上イベントの開催

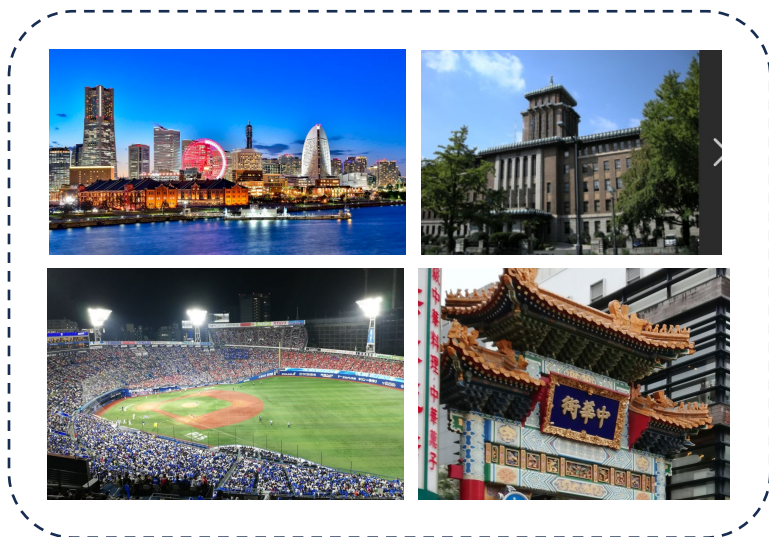
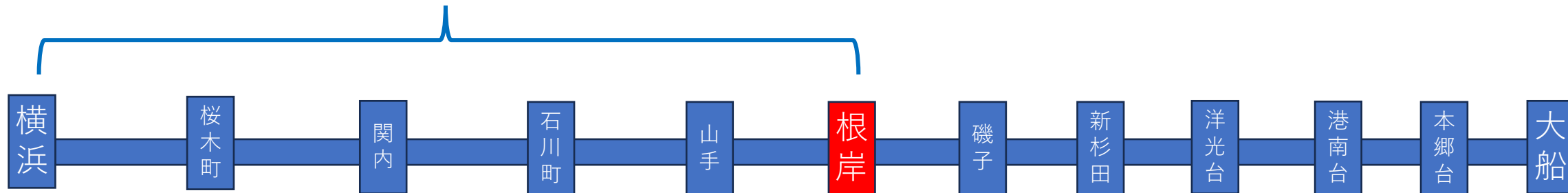
anniversary
かながわ畜産の日
フードフェス2023
in湘南台
同時開催
第32回かながわトントンまつり
11月 第一日曜日 かながわ畜産の日
湘南台公園 (藤沢市湘南台7丁目16番)
小田急線、相鉄線、横浜駅地下鉄ブルーライン 湘南台駅東口
徒歩10分
※国内で鳥インフルエンザなどの家畜伝染病が発生した場合や
天災の場合、中止することがあります

【主催】かながわ畜産ブランド推進協議会
【共催】藤沢市、一般社団法人神奈川県畜産会
【お問い合わせ】一般社団法人神奈川県畜産会 Tel. 045-761-4191
ホームページ <http://kanagawa.lin.gr.jp>
神奈川県畜産課 Tel. 045-210-4506

神奈川県畜産会のある場所

所在地：横浜市磯子区西町1-4-3（神奈川県畜産センタービル2階）

公共交通機関：JR根岸線 根岸駅下車徒歩5分（JR横浜駅から根岸駅間は5駅約12分）



徒歩5分

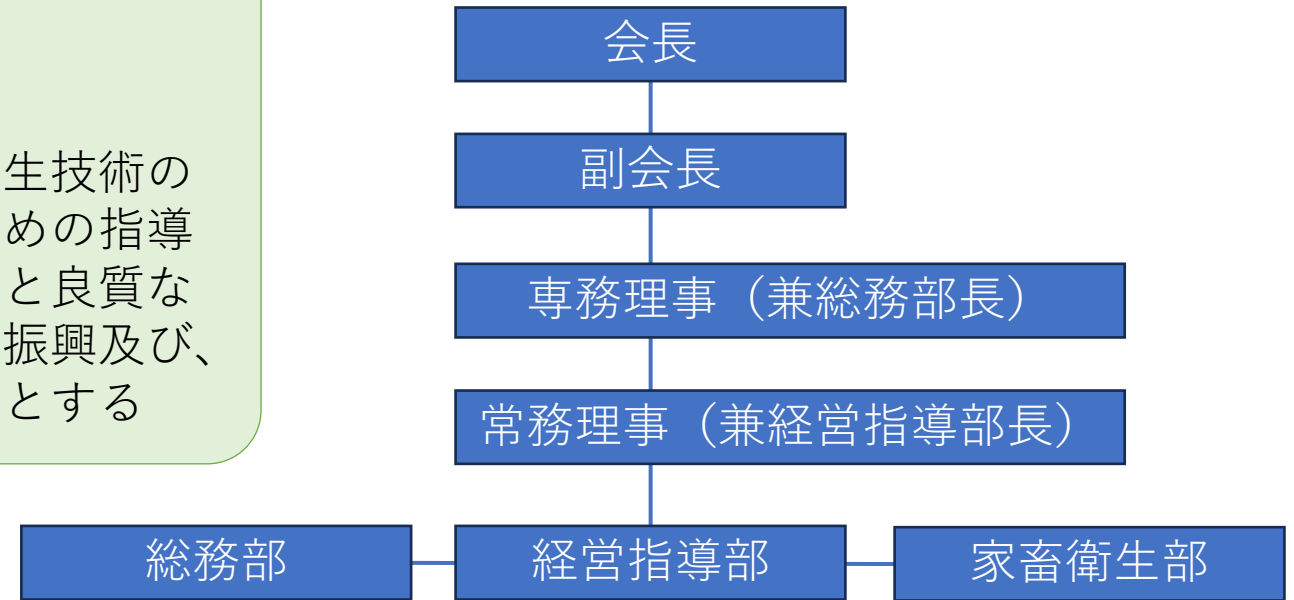


神奈川県畜産会



組織の概要

法人名 一般社団法人神奈川県畜産会
所在地 神奈川県横浜市磯子区西町14-3
設立 昭和31年1月30日
会員数 66
役員構成 理事19名、監事3名
目的 畜産経営の改善、畜産技術及び家畜衛生技術の改善向上並びに畜産物の品質向上のための指導及び検査を行い、畜産経営の安定向上と良質な畜産物の生産に貢献し、もって畜産の振興及び、県民の福利向上に寄与することを目的とする



正規職員 (うち総括畜産コンサルタント)	2名 (1名)	2名 (1名)	1名 (1名)
臨時職員	2名	1名	1名
部ごとの計	4名	3名	2名
職員数合計	9名		

(Aさん) 県畜産会では、昭和31年の設立当初より畜産農家の経営改善を看板に経営診断業務を主軸として運営を行ってきました。

私が入社した平成初期の時代に比べれば少なくなった畜産農家ですが、都市化の進む中で、環境対策、衛生対策、生産コスト対策、販売戦略、後継者育成など沢山の課題をクリアーしながら都市近郊の畜産を守り続け、先代から引き継いできたのが現在の経営者達でありその家族や従業員の皆さんです。

経営戦略も時代と共に変化し、品種改良やブランド化、六次産業化、ITやAI活用など様々な技術と情報を活用しながら収益性を確保しています。そうした中で、私たち畜産コンサルタントと言われる支援者側も、その変化に対応し一步一步ステップアップしながら支援していかなければなりません。

いまや作れば売れる時代から、商品(畜産物)としてのこだわりやその背景にある生産者の思いを大切にしながら、品質の向上、安全性の担保、疾病防除、生産性と収益性の確保、と現代の経営者は沢山の課題を背負っています。農場の経営をサポートする専門家の一人として携わっている中で、生産者が困ったときに「一番初めに連絡をくれる相手でありたい。」の信念で日々仕事に取り組んでいます。

農場に伺った時に笑顔で迎えてくれる生産者さんがいることが仕事へのモチベーション！

(Bさん) 私は主に酪農に関する業務を担当しており、普段は生産者の機械装置導入の支援や酪農ヘルパーの取組に関する助成金交付申請などの業務を行っております。ほかにも畜産関係イベントへの出店やPR動画の作成なども行っています。また、畜産コンサルタントとして酪農家の経営データを分析しフィードバックをしています。もともと地元の神奈川で頑張っている生産者の力になりたいと思い畜産会に入職したので、生産者の方に感謝されるとやりがいを感じます。経営データの分析は大変ですが、分析結果を渡した際に生産者の方から「ありがとう、助かるよ」と言ってもらえるととても嬉しいです。

このような方を募集しています

畜産農家にはなれないけれども、生産者とともに神奈川県畜産の振興と県民の福利向上に寄与したい

食べることが好きで、大消費地を抱える神奈川県でかながわ県産畜産物のPRに大いに関わりたい

生産者や畜産業界の皆さんと積極的にコミュニケーションをとりながら仕事を進めたい

畜産主産地とは異なる都市型畜産の振興に関心があり、積極的にかかわっていききたい